

公共事業再評価調書(再々評価)

主管課：都市計画・モラル課

1 事業概要	事業名：首里城公園整備事業		前再評価年度：平成19年度	
	事業種別：都市公園事業	事業主体：沖縄県	(S62~H24)	
	事業箇所：那覇市	根拠法令：都市公園法	事業期間：S62~H34	
	(23,600)		(13.8ha)	
(整備目的)	総事業費(百万円)	23,600	費用内訳：補助1/2	事業量：13.8ha
1-2 前再評価以降の計画変更	県民の歴史・文化に対する関心の高まりや、余暇利用の多様化に伴い、風格ある歴史的環境を創出し、歴史・文化の拠点として、県民の利用はもとより沖縄観光の中核拠点として整備する。			
2 再評価該当項目	<input checked="" type="checkbox"/> ① 再評価後一定期間(5年)を経過 <input type="checkbox"/> ② 事業の中止 <input type="checkbox"/> ③ その他()			
3 再評価に至った主な要因(具体的理由)	<input type="checkbox"/> ① 用地取得等の困難 <input type="checkbox"/> ② 調査・設計の困難 <input type="checkbox"/> ③ 事業の拡大 <input type="checkbox"/> ④ 予算の確保 <input type="checkbox"/> ⑤ 手続き・法令の問題 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥ 他事業との関係 <input type="checkbox"/> ⑦ 整備効果の問題 <input checked="" type="checkbox"/> ⑧ 当初計画が長期間 <input type="checkbox"/> ⑨ その他()			
4 事業の進捗状況(H24.3月時点)	項目	事業費(百万円)	整備率(ha)	用地取得(ha)
	計画	23,600	13.8	13.8
	実施済	15,332	10.6	13.6
	率	65%	77%	99%
4-2 前再評価以降の主な進捗	・上の毛エリアの補償難航物件について、平成23年度までに撤去を完了した。(2筆、約430㎡) ・上の毛エリアの斜面保護整備を行い、安心・安全な地域住民の憩いの場として活用されている。 ・老朽化に伴う首里杜館(レストセンター)の設備等の改築・更新。			
5 事業効果の評価指標(基準年H24)(検討年50年)(単位:百万円)	① 直接便益(旅行費用法)	499,115	① 建設費	23,600
	(県内:297,455、県外:201,660)		用地費	6,000
	② 間接便益(効用関数法)	27,164	施設費	17,600
	(環境:15,061、防災:12,103)		② 維持管理費	10,202
	総便益	526,279	総費用	33,802
	基準年換算(B)	473,203	基準年換算(C)	48,874
	費用便益比(B/C) = 473,203 / 48,874 = 9.7			
6 事業を巡る状況の変化(前再評価以降)	① 社会・経済：平成19~23年度の沖縄県入域観光客数は、平成20年度に過去最高の約593万人を記録した。その後、東日本大震災の影響等もあり減少したが、平成23年度も約552万人を記録した。首里城公園の来園者数についても、毎年200万人以上を記録しており、平成23年度は約210万人を記録した。 ② 地元・自治体：首里振興会による「鯉のぼり掲揚」「琉球王朝祭り」、首里城下にチョウを飛ばそう会による食草など、地元住民による公園活性化のためのイベント、景観形成活動が活発に行われた。また、地元関係団体からは、中城御殿の復元整備を望む声が多くある。 ③ 利害関係者：前回再評価にて、補償難航物件としていた上の毛エリアの2筆については、平成23年度までに撤去を完了した。			
7 事業の必要性や効率性	① 事業の必要性・緊急性・有効性など： 残事業としては、中城御殿や松崎馬場等の整備がある。中城御殿については、新たな古写真の発見により往時の御殿の忠実な再現が可能となり、文化的価値が高い施設となるため、着実な整備が必要となる。また、これらの施設整備により正殿だけでなく、公園全体を回遊する観光ルートが確立され、来園者の利便性向上が図られる。 ② 事業の効率性：(代替案等の可能性やコスト縮減) 進捗率は77%であり、国営沖縄記念公園(首里城地区)や県教育庁事業と連携して現計画を推進することが効率的である。また、中城御殿復元整備については、今後の計画・設計においてコスト縮減を検討する。 ③ 事業効果の発現状況： ・新たに上の毛エリアの斜面保護整備を行い、安心・安全な地域住民の憩いの場として活用されている。 ・整備済み箇所には、県内外より多くの来園者が訪れている。			
8 今後の対応方針・見直し	① 事業計画等：今後は、中城御殿跡地の整備を重点的に進め、平成34年度には整備を完了し、供用を目指す。 ② 対住民関係：引き続き補償交渉を進める。 ③ 執行体制等：現体制で執行は可能である。			
9 対応方針	<input checked="" type="checkbox"/> ① 事業継続(現計画) <input type="checkbox"/> ② 事業継続(見直し) <input type="checkbox"/> ③ 事業の中止			
10 その他(前再評価での主な意見等)	・中城御殿は過去の写真のとおり、同じグレードで復旧していただきたい。 ・中城御殿は外観だけでなく、その中での暮らしも調べて頂いて学べる様にして欲しい。			

* 1事業概要の上段()は前再評価時点の計画